



# 東京YMCA

2012 12月号 発行所 公益財団法人東京YMCA 発行人 廣田光司  
135-0016 東京都江東区東陽2-2-20 電話 03-3615-5562

URL <http://tokyo.ymca.or.jp>

## 東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

写真家・ノンフィクション作家

## 桃井 和馬 さん

1962年生まれ。世界140カ国を取材し、「紛争」「地球環境」などを機軸に、独自の切り口で「文明論」を展開。第32回太陽賞受賞。恵泉女学園大学客員教授。著書に『妻と最期の十日間』（集英社新書）、『希望の大地』（岩波書店）など多数。「多摩市循環型エネルギー協議会」会長など、様々な地域活動にかかわっている。



\*11月20日の東京YMCA午餐会で、桃井和馬さんから世界各地の写真とともに講演いただきました。以下に要約をご紹介します。

「日本の森」(撮影・桃井和馬)



We build strong kids, strong families, strong communities. YMCAは、たくましい子どもたち、家族の強い絆、支えあう地域社会を築きます。

# ひたすら祈り続ける

## 3・11後の生き方を思索



「電気がない世界」がフェルメールを生んだのだとこの場所で知った。ザンスカール インド (撮影：桃井和馬)

祈りとは、人間を超えた存在との対話である。日本では延9千万人が初詣に行くといわれる。家内安全や商売繁盛など、さまざまなことが祈られるだろう。けれどもそれは、「お願い」であって本質的な「祈り」とは違う。本質的な祈りとは、人間がいかに小さく弱い存在かを覚えること。人間を超えた偉大な存在があることを覚えることだと思ふ。ユダヤ教にはキツパという帽子がある。寺院に入るときには誰もがそれをかぶる。偉大な存在が頭上にいるからである。イスラム教では、どんなに偉い人でも毎週金曜日にはモスクで背中を丸め、額ついて祈る。そうやって、体中で人間の小ささを覚え続けている。

ペルーには、標高5600mのアンドス山で行われるカトリックのお祭りがあつた。毎年1〜2人は水河から落ちて死ぬような山頂に、十字架を持って登り、祈る。人はそこで、人間を超えた存在があることを身体にしみこませて、祈っている。チベットの寺院は、人間が立ち入ってはならないような孤高の地にある。氷点下10度、空気が薄くて凍っている。自ずと祈りたくなる。こういう所で宗教が生まれたと実感する。

日本では古来、手つかずの森に人間を超えた存在を感じ、畏怖・畏敬の対象として守ってきた。そこには闇があり、カミ(神)、神々、妖怪、もののけなどが宿っていると考えられた。今でも神社仏閣の周辺は、スギの植林地帯にならずに、本来の雑木林に囲まれている。また神社仏閣には、余分な空間が多い。伊勢神宮、厳島神社の千畳閣などには、現代のマンションにはない非合理的な空間がある。その暗闇や空間があることに

よって人間は慎みを持ち、「カミ」がいることを知る。

私は10月に2週間、四国の山々を歩いた。かつて修験者が歩いた道は、ケガをしても病気になることも救助が来るような所ではないから、自ずと死を覚悟することになる。地図上の道がヤブで塞がっているだけで簡単にパニックをおこす。方位磁針が狂って遭難したこともあつた。調理器具も持たず、川の水を飲み、足のマメをつぶしながら歩く。日が暮れると、暗闇が襲ってくる。一寸先も見えない暗闇は本当に怖い。疲れていると簡単に幻聴や幻覚を見る。たぐさんの赤い目がこちらを見ていると思つたら、二ホンカモシカの群れだつた。人間がいかに弱い生き物であるかは、自然の中に身を置くとき実感できる。

暗闇の恐怖におびえながら夜の山道を歩く私にとって、ライトの光は、「希望」や「理想」「神」のメタファであるように感じられた。自分が一歩前に進むと光も一歩前に進む。私はいつまでもそれに追いつくことはなく、またライトを消すとすぐ方向を見失ってしまう。私は写真家なので、光と闇を見つけてきた。暗闇の中に光が差す。光があるから素晴らしくみえる。闇だけでも光だけでも社会はおかしくなる。

私が何回も行き続けている場所に、ヒマラヤのラダックという村がある。道中、崖の谷間を通り、凍ったインダス川の氷上を行く。時々氷は割れるので水の中を歩く。日本人なら当然、橋を作つたでしょう。しかしヒマラヤは広大であり、コンクリートで覆うわけにはいかない。自然は変えられないから、自然のルールに従うしかない。

ラダックの村では冬期、わずかな時間しか電気が使えない。川の水が凍って水力発電が使えないからである。水道もなく、往復1時間歩いて水をくむ。トイレトペーパーの代わりに牛糞が使われている。停電も当たり前で、家は電気がないことが前提で建てられている。だから、光が入ってくる居間に家族みんなが集まって暮らす。

町の暮らしかあかされる若者もいる。しかしここは宗教があることによつて、人間の欲望が規制されてきた。もうこれ以上持たなくてもいいという取り決めが住民同士で作られている。本当に必要なものは何かと考える。その方が日本より先進的なのではないかと、今は思う。

私は正直なところ、3・11までは原発を容認していた。私たちの科学技術は優れていると信じてきた。しかしそれが原発の暴走により、幻想であつたことを知つた。私が講演会などでこの話をすると、よく怒られる。「原発がなければ経済が維持できない」と。確かに今も不況で苦しい。けれども、日本はまだ世界で3番目に豊かであり、世界70億人の人々が日本と同じ生活を送ると、地球は2、3個必要になるともいわれている。

私たちは、いつも明るく合理的な空間の中で、祈りを忘れ、人間が一番偉いと思いがつてきたのではないかと。そして、自分たちの立つ地上さえ破壊している。これは愚行であり、進歩ではない。人間が万能ではないことを覚え、日常的に祈るとき、行動には慎みが生まれると感じている。

(編集 広報室)

## 赤三角

▼キリスト教会では、クリスマス前の4週間を待降節(アドベント)と呼び、特別な礼拝をもちます。この時期、必ず取り上げられるのが、母マリアへの「受胎告知」です。天使ガブリエルがマリ

アに「あなたは身でもって男の子を産むが、その子をイエス(主は救いという意味)と名づけない」と告げます(『ルカ福音書』1章25〜38節)。フラ・アンジェリコをはじめ、ダ・ヴィンチ、ボッティチェリ、エル・グレコなど多くの画家がこの主題で作品を残しています▼マリアが応えた言葉「お言葉どおり、この身に成りますように。」の最初の言葉が「Let it go」です。いうまでもなく、ピートルスの代表的なナンバーで、ポール・マッカートニーの詩は、明らかにこの場面をうたったものです。日本語では「みこころのまま」となるでしょう▼東京YMCAの不登校児のための居場所「Libby」は「Let it be in the YMCA」の頭文字をとったものです。僕はこれを今まで「自由に自づつみよう」「なるようになる」「ケ・セラセラ」という意味で理解してしました▼「心」は神様の「みこころ」だったわけで、そこにこんな深い意味があつたとは知りませんでした。クリスマスはすべての苦しんでいる人によつてきます。メリークリスマス！(医療福祉専門学校講師/ Libby運営委員 武田利邦)





昨年度の会員協議会で出された課題と その後の取り組み (部分抜粋)

昨年度出された課題	その後の取り組み
● 会員制度の見直し	⇒ 永年会員制度の導入。会則上の会員の定義変更。
● 会員大会の持ち方を工夫	⇒ 財政状況についても開示し説明をした。また、音訳ボランティアから会員になったメンバーにバンド演奏をしていただいた。
● 会員になっていない職員、リーダーOB、卒業生などへのアプローチの必要	⇒ 会員増強委員会を設置して検討を重ねている。11～12月に会員募集キャンペーンを実施。新しい会員募集パンフレットを作成した。
● 広報の工夫	⇒ チャリティーランのホームページなどを刷新した。一般向けメルマガ配信も準備中。

基調講演

YMCAの会員理解

「蛻変を重ねた歩みの中で協同する会員」

ぜいへん

元東京YMCA副総主事 齊藤 實

「東京YMCA100年の歴史は、継承と変革との連鎖であった。蟬が殻を抜け、蝶がさなぎから出て飛び立つような蛻変(ぜいへん)を重ねて、今日の東京YMCAがある。蝶は毛虫として生き、やがてかたちを変えてサナギとなり、成虫になって舞い飛んでゆく。その姿かたちを変えるどの時点でも、蝶は蝶としての「いのち」を保っている。蝶や蟬などに見るこのような変化を蛻変という。YMCAは、時代にふさわしく蛻変を重ねる中で、1880年創立時に立てた使命をゆるがすことなく果たし続けているのである。お手許の資料は、1980年2月、私が『東京キリスト教青年会百年史』の執筆を終えた直後に書いた機関紙『東京青年』の論壇である。ここに書かれた「YMCAのいのち」の継承は、今も私の思いであって変わるところはない。

■ 発会～戦時中の「会員」 ■

東京YMCAの「会員」とは誰を指すか、ということもまた蛻変を重ねてきた。「会員」とは「個人が、その団体にどのように関わるかを示す(かたち)」のことである。1888年、東京YMCAが東京「基督教徒」青年会と名乗って発会した当時は、「年齢16年以上の青年にして福音主義教会の善良なる信徒」、つまり16歳以上の男子クリスチャンのみを正会員としていた。諸活動参加者は男子に限られていた。時代が移って女子を活動に加えたが、体育館の場合、始めはスクエアダンスと卓球に限るものであった。1950年のことであった。52年には、キリスト者ではない男子(準会員)と女子会員(会則では「会友」とされた)も、総会に出席して議決に加わる権限が認められた。当時の20歳代キリスト者のグループ「ヨハネ会」がこの変革を推進した。59年には、少年部で女子中学生の活動参加も受入れるようになった。

アジア・太平洋戦争下の1940年には、宗教団体法によってキリスト教各派が「日本基督教団」にまとめられたが、YMCAは国内の各YMCAがひとつの「日本YMCA」となって日本基督教団に付属することとなった。そうすることによってYMCAの「いのち」を守ったのであった。ここにも蛻変を見る。

アジア・太平洋戦争直後に、新聞の三行広告

で、広く会員を募集したことがあった。「活動参加者募集」であった。神田会館が日本占領の米軍に接収されていた時代だが、私はこの広告を見て1946年に入会し、その2年後には職員になった。都職員からの転職であったが、その決心をさせた背後には、「神の召命を受けてYMCAの働きに献身する」という熱い思いがあった。その頃は、会員活動の現場には、会員に「召命」を促すほどの精神的気配が満ちていた。

■ 戦後～現在 変わらぬ基盤 ■

1950年代の初め、東京YMCAは「大東京方式」を唱えて「ランチ」を設け、それまで神田だけだった活動拠点を首都圏内各地にまで広げた。これにより、都内はもとより、それぞれの地域ならではの特性をもったYMCA活動が実施されるようになった。また、若い会員有志は全国規模の「レイリーダー協議会」を設けて広く会員(レイマンと呼ばれる)の運営参画を促した。初めは参加者だった者が、関わりを深める中で自然に「参画者」「運営者」へと変わっていったのである。

そして昨年、東京YMCAは、会員とは「会員活動を維持し、担う者」と定めなおした。会員として諸活動の運営に参画するばかりではなく、会費を納入することによって東京YMCAの維持発展に寄与することの大切さを意識するためであった。会員募集とは、会員数の増加と、会費額の増額をも図るものである。本日配布の資料の中に、1937年の会員募集運動の写真がある。今日の出席者の父上が数人写っている。YMCAは、世代を繋ぐ会員としてのかかわりを実践している団体である。1975年の写真には、目標485人に対して517人の新入会員が集められたことや、新入会員に、国際ギデオン協会からの新約聖書贈呈を慣わしとした様子が記録されている。

蛻変を繰り返しながら守り続けてきた「使命」、すなわち東京YMCAが拠って立つ基盤は、「福音」を証しする業をすすめることである。この継承すべきいのちを正しく受け継ぐために、変革をためらわずに、会員を増やし、力をつけて、この団体が続くことを願う。

会員協議会「ソシアスフォーラム」今、改めて「会員」増強を問う

東京YMCA会員協議会「ソシアスフォーラム」が11月17日(土)10時半～16時、東陽町センターで開催された。今年のテーマは『子どものいのちを守りユースを育てるために』であり、会員、スタッフ合わせて46人が参加した。開会礼拝の後、齊藤實氏(元東京YMCA副総主事)から、『YMCAの会員理解』と題し、約40分の基調講演をいただいた(Ⅱ

下枠参照)。齊藤氏は、1946年に会員となって以来60年以上にわたって東京YMCAに奉仕されてい。また東京YMCA130年史と100年史の執筆者であることから、会員の歴史の変遷とその中で変わらず継承されてきた基盤・使命について、詳細な資料をもとに説明くださった。続いて会員部運営委員長の笈川光郎氏から、昨年度のソシアスフォーラムで出された課題について、この一年間でどう取り組まれてきたか、資料に基づき報告された(左枠参照)。会員増強の必要については、昨年度の協議会でも指摘されており、以後、会員増強委員会を組織。今年11月～12月に『会員募集キャンペーン』を実施し、現在800人の会員を1000人に増やしていくこととなった。

分団1 【会員増強の方策】

現在の会員数は約800人だが、年度内に200人増やして1000人にし、会員の層を暑くしたい。

- ◆まずは、YMCAにかかわりがある人を対象として募集していく。リーダーOB、野尻学荘や少年部のOB、卒業生、プログラム参加者などの名簿を整理しつつある。
- ◆会員が集えるプログラムがもっとあると良い。会員になっても仲間作りの場が限られている。
- ◆心の糧となるような講演会などがもっとあるとよい。
- ◆会員となるメリットは、物質的なものではない。誰かを支えることで精神的な満足感や喜びがもたらされることをアピールしてはどうか。

分団2 【コミュニティの会員活動】

会員募集をしても、会員活動が活発でなければ、会員は継続していかない。コミュニティの会員活動が会員増強の本流である。

- ◆現在、各コミュニティセンターで行われている行事は内向きな傾向にあるが、たとえばバザーの収益をYMCA外の活動に寄付するなど、地域・社会に出て行く必要があるのではないか。
- ◆職員の中にも「YMCA運動」に触れる機会の少ない人もいる。たとえば震災支援活動など、もっと行事に参加させてはどうか。
- ◆活動したい人が手を挙げて活動していける場が欲しい。やる気の受け入れ体制が必要。

分団3 【ユースの育成】

YMCA運動の原点は、ユースの育成支援にある。

- ◆学生は、アルバイトなどで忙しいが、リーダーズフォーラムなどの機会を増やしたり、ワイズメンズクラブとの交流を増やしたりして、育てていきたい。
- ◆社会人リーダーの登用も考えるべきである。
- ◆フェイスブックなどソーシャルメディアの活用も有効だが、育成のためには人格的接触、ふれあいが必要になる。
- ◆キャンプ以外にもチャンスを与えるなど、「成長」の視点を大切にしなければならない。

分団4 【FD戦略】

昨年度作成された「FD(ファンドディベロップメント)委員会 答申書」をもとに、「YMCAファン」を増やしていく方法などを話し合った。

- ◆公益財団法人として「いいことをやっている」と、会員・職員全員が使命感と自信をもって活動することが大切である。そして活動の魅力をあらゆる手段で広報していく。
- ◆企業には仲介者をおして訪問し、どんな社会貢献をしているか明確にアピールする必要がある。
- ◆やりがいと魅力ある活動がアピールできれば、やる気のあるユース、会員も集まってくる。
- ◆現状は、企業へアプローチするにも、HPなど広報ツールを活用するにも、スタッフが足りず十分ではない。もっとボランティアを活用してはどうか。



親と子のハーモニーコンサート

450人來場 玉川聖学院ホールで

11月10日(土)、玉川聖学院谷口ホールで東京YMCA親子が來場した。子どもたちも本物の音楽を聴かせたというチャイルドケアセ...



「我が家も0歳からチャイルドケアセンターにお世話になりハーモニーコンサートを鑑賞し、園児20人の小さい保育園がこんなに高い志をもって、こんなに大き...

以来2年間実行委員をさせて頂いた。今年の委員としての議論の中心は「観客の「マナー」。たとえ幼児であ...

まれるすばらしいコンサートを開催できることを保護者の一人として誇りに思...

世界YMCA/YWCA合同祈禱会

「暴力に勝利はない」

11月15日、東京YMCA・東京YWCA・在日本韓国YMCA合同の祈禱会が御茶ノ水の東京YWCA会館で開催された。出席者は57人で、今年のテーマは「暴力に勝利はない」だった。

会の始めに、全国総主事会議で提示された「東北アジアの平和の祈り」を全員で読み上げた。昨今、領土をめぐる問題で国家間の緊張が高まっているが、武力や暴力ではなく、対話による解決のみが平和を作り出すことを確認した。



東アジアの平和を願って

ソウルで YMCA 指導者協議会

第18回ソウル・台北・東京YMCA指導者協議会(S.T.T)がソウルにて11月23日から26日、40人の参加をもって行われた。2年に1回持ち回りに開催されている。...

与える方が幸いである

すべての人を一つにしてください

「わたしは、あなたが変わらないうちに、歌心なひと時を過ごしていただくように動いて、の会、子どもの学習指導、ワークキャンプ、子どもによって会員も職員も導、ワークキャンプ、子どもによって会員も職員も導、ワークキャンプ、子どもによって会員も職員も導...

子育て講演会

「子どもといっしょに」

食事を楽しんでいただけますか



11月18日(日)、しのがが開催され、70人の方に参加いただいた。今回のテーマは「共食(きょうしょく)」。家族がばらばらに一人ずつ食事をする「孤食」の家庭が増えている現代において、家族と食を共にすることは大切...

「人生に於ける決断」と題する奨励が行われた。このS.T.Tの交流の積み重ねが、東アジアの平和と共生を促す一助であることを確信する時となった。

石巻通信 vol.7

YMCA石巻支援センター 伊藤 剛士



11月1日から5日までの研修が、日ごろのストレスの裏返しとも取れる「日本YMCA同盟STEP2研修(主事養成研修)」に参加中の全員のYMCAスタッフら10人が、宮古市・仙台市・石巻市の被災地にあるYMCAの役割について学びました。...

「子ども達は総じて本大震災で「被災」をしなく、お手伝いや食に関わるすべてのことが「共食」であることを知った。早速、今日の食卓から携帯を無くします」などの声をいただいた。